

東京農業大学大学院の名称及び教育研究上の目的

博士前期課程・修士課程

【研究科 目的】		
農学研究科	本大学院農学研究科博士前期課程は、国内外の農学諸分野におけるフロンティアとして、見識と実力、さらに健全で調和のとれた人間性を有する研究者および高度専門技術者の人材育成を目指し、実学主義教育のもと論理的思考力と問題解決能力の獲得および向上を図り、生物資源、生命科学、環境科学、健康科学ならびに経営・経済分野の教育・研究を行うことを目的とする。	
応用生物科学研究科	本大学院応用生物科学研究科博士前期課程は、専門領域における確かな知識・論理的思考力を基盤とし、応用生物学に関連した課題を高度な観点から探求し、問題の解決に向けた柔軟な判断力・遂行能力を修得させることを教育研究上の目的とする。	
生命科学研究所	本大学院生命科学研究所博士前期課程は、生命科学の学問領域において、その基本的な能力を身につけた人材が、より専門的な知識、技術、思考力を備えることで、協力してより困難な問題の解決に向けた対応力、遂行能力を修得させることを教育研究上の目的とする。	
地域環境科学研究科	本大学院地域環境科学研究科博士前期課程は、身近な地域から地球規模に至るまでの地域環境に関する諸問題に関する高度な理解力と課題解決のための専門知識、ならびに調和ある地域環境を構築するための生物資源の保全・利用・管理に関する専門知識と専門技術を習得させ、さらに取り扱う諸問題の社会的意義を自覚し、責任感を持って課題解決にあたる事が出来る高度な倫理観と使命感を習得させることを目的とする。	
国際食料農業科学研究科	本大学院国際食料農業科学研究科博士前期課程は、「実学主義」に基づいて農学・食品科学及び経済学・経営学・人文科学にわたる総合的なアプローチにより、食料・農業・環境領域での各国・地域の特性を活かした発展の実現に向けた課題の解決に取り組む柔軟な判断力と分析能力及び国際的視野に立った社会貢献の遂行能力を習得させることを教育研究上の目的とする。	
生物産業学研究科	本大学院生物産業学研究科博士前期課程は、幅広い学問領域の知識を備え、高度な専門知識と能力及び創造性豊かな優れた研究・開発能力を持つ人材の育成を目指し、生物産業学に関する実学の精神と文理融合の教育体系に基づき、北方圏の地域性を活用した農林水産に関わる生物資源、バイオテクノロジー、経営経済分野の教育・研究を行うことを目的とする。	
【専攻 目的】		
農学研究科	農学専攻	農学専攻博士前期課程は、環境の保全・保護を図りつつ、安全で高品質な農作物を安定的に生産・流通させる技術の確立を目指し、農作物およびそれにかかわる微生物や昆虫類に関する専門的な学理を実学的な視点から教育・研究することにより、卓越した発想および問題解決の能力と強い使命感を持って次代を担う専門技術者、教育者、研究者などの人材を養成することを目的とする。
	動物科学専攻	動物科学専攻博士前期課程は、動物科学について、生体から分子まで様々なレベルで教育と研究を実践する。畜産関連の幅広い分野で様々な課題に対応できる、高度な知識と技術を合わせ持つ人材を養成することを目的とする。
	バイオセラピー学専攻	バイオセラピー学専攻博士前期課程は、人の生活と自然環境の保全と保護が調和する社会の構築を目指す「環境農学」および動植物の利活用によって人の生活の質や心身の健康の向上と改善を目指す「福祉農学」の視点に立った教育研究を展開する。これら教育研究の目的のもと高度な専門知識と技術を修得することで、持続的な社会のあり方を提言できる豊かな感性と問題解決能力を有し、社会の現場で実務的役割を果たす知的リーダーとなる人材を養成する。
応用生物科学研究科	農芸化学専攻	農芸化学専攻博士前期課程は、必修の基礎科目として配当する「生体機能化学ⅠおよびⅡ」において植物、動物、昆虫、微生物など生物の有する多彩な化学的機能を深く学び、さらに「土壌肥料学・植物生産化学・応用微生物学・食料資源理化学・生物有機化学・栄養化学」などの各専門領域における確かな知識と技術を修得する。これらを通じ、人類の生活に関わる研究課題を論理的に解決できる能力を修得させることを教育上の目的とする。
	醸造学専攻	醸造学専攻博士前期課程では、必修の基礎科目として配置する「研究倫理」および「プレゼンテーション法」により研究者や技術者として必要な倫理および能力を身に付ける。「醸造学概論」および「応用微生物学特講」において醸造学専攻の研究分野に関する基礎的な内容を学ぶ。さらに特論科目を履修し、該当分野の造詣を深めると同時に英語論文を教材として用いることにより英語の読解力を養う。これらの科目と有機的なつながりを持ちながら研究科目を履修することにより、研究能力および問題解決力を修得させることを教育上の目的とする。
	食品安全健康学専攻	食品安全健康学専攻博士前期課程においては、教育研究の柱とする「食品の安全性」と「食品の機能性」の両分野を学ばせるために、必修の基礎科目として「食品安全学特論」と「食品機能科学特論」を配当する。さらに、それ以外の専門科目等を配当し、それらの履修により両分野の理解を深めさせる。以上により、食品成分のリスクの意味を理解した上で機能性を評価することができ、難度の高い問題を解決できる能力を修得させることを教育上の目的とする。
	食品栄養学専攻	食品栄養学専攻博士前期課程は、必修の特論科目として配当する「食品栄養学特論」と「人間栄養学特論」において、教育研究の柱となる「食品栄養学」と「人間栄養学」の両分野を横断できる幅広い教養を修得させる。また、それ以外の基礎科目や特論科目等の履修により、各分野の造詣を深める。それにより、ヒトの健康の保持・増進ならびに疾病の予防・改善に向けた食の機能性の利用や栄養管理を行うための専門的知識・技術と研究能力を修得させることを教育上の目的とする。

東京農業大学大学院の名称及び教育研究上の目的

博士前期課程・修士課程

【専攻 目的】	
生命科学 研究科	バイオサイエンス専攻 バイオサイエンス専攻博士前期課程では「細胞分子機能科学特論」、「植物生命科学特論」、「動物生命科学特論」から構成される各特論、及び「分子細胞生物学」、「生命情報工学」、「遺伝育種学」等、生命科学分野の周辺科目より最先端かつ専門知識の習得し、「論文英語」、「プレゼンテーション法」より独自に学術論文から得た情報を研究に活かし、成果発信能力を鍛錬する。 以上のカリキュラム及び研究活動を通じて、生命科学の専門領域における確かな知識、研究技術を体得するとともに、問題設定・解決能力、成果発表能力を習得させ、産業・教育の発展に広く寄与する人材の育成を教育研究上の目的とする。
	分子生命化学専攻 分子生命化学専攻修士課程では、化学を中心とする自然科学を総合的に理解し、様々な自然・生命現象に対して、分子論的な解釈と化学的なアプローチを可能とするため、基盤的教育を行った上で、「有機化学」もしくは「分子機能解析学」の両分野より高度な専門的学問を学び、各分野の造詣を深める。それにより、生命科学分野において化学を基盤とした専門性を身に付け、難度の高い問題を解決する能力を習得させることを教育上の目的とする。
	分子微生物学専攻 分子微生物学専攻修士課程では、必修の基礎科目として配当する「研究倫理」および「論文英語」「プレゼンテーション法」により研究者や技術者として必要な倫理および能力を身に付ける。「微生物機能科学特論」および「微生物共生作用学特論」では分子微生物学専攻の柱となる研究分野の基礎を学び、さらに「微生物生命機能学」と「微生物利用学」において、微生物の機能とその応用利用について深く学ぶ。以上により、多面的に微生物の理解を深め、専門的な知識・技術・研究能力を修得させることを教育上の目的とする。
地域環境科学 研究科	林学専攻 林学専攻博士前期課程は、地域から地球的規模にいたる森林・林業・林産業・農山村に関する高度な知識と理解力や、森林の資源生産的機能と環境保全的機能に関する総合的で高度な研究能力と管理能力を持ち、森林の保全とその多面的機能の高度利用、生物多様性の保全、循環型社会の形成に関する問題設定・解決能力を備えた人材の養成を目的とする。
	農業工学専攻 農業工学専攻博士前期課程は、環境に配慮した地域資源の有効利用と循環型社会の構築を理念とし、これらを技術的に具現するために農業土木、農業機械及び環境情報分野の学問を基軸とした実践的な教育研究を行い、国内のみならず海外の現場での技術開発・問題解決と学術的な研究を両立できる能力を持った人材の養成を目的とする。
	造園学専攻 造園学専攻博士前期課程は、庭園・公園などの基本的造園空間に加え、都市から自然地域までの快適な環境を実現するための計画・デザイン思想と技術力、環境を構成する植物をはじめとした生物資源や建設技術に関する知識と応用能力を高め、教育研究活動を通じて豊かな地域社会と社会資本の形成に貢献できる専門的技術者、教育者、研究者などの人材の養成を目的とする。
	地域創成科学専攻 地域創成科学専攻修士課程では、「基礎科目」において、プレゼンテーション能力や英語力、地域創成科学に関する実験・調査計画法、フィールド調査及び環境教育法などを修得し、「特論科目」において、保全生態学、地域環境保全学、地域環境工学、及び地域デザイン学に関する専門的知識と研究能力を修得する。これらを通じ、地域創成に関する調査・評価手法などの高度な知識と技術を修得するとともに、論理的・多面的に物事を考えることができ、地域づくりを担うリーダーシップを備えた人材を育成することを目的とする。
国際食料農業科学 研究科	国際農業開発学専攻 国際農業開発学専攻博士前期課程では、研究科共通科目として配当する必修科目の「研究倫理特講」により、研究者として備えておくべき倫理を身に付ける。また、基礎科目である「論文作成法」及び「サイエンスコミュニケーション法」において、学術研究をまとめるために必要な技法及び報告の方法を学ぶ。さらに、「生物生産科学特論」、「国際農業開発学特論」、「熱帯作物学特論」、「熱帯園芸学特論」、「熱帯作物保護学特論」、「農業環境科学特論」、「農業開発経済学特論」、「農村開発協力特論」といった特論科目を履修し、専門領域に対する理解を深める。これらの科目を履修することにより、農業開発や国際協力にかかわる問題の解決を図るための論理的思考力と実践力、さらには、異なる文化や習慣を尊重した活動を展開できる人材の育成を教育上の目的とする。
	農業経済学専攻 農業経済学専攻博士前期課程では、研究科共通科目として配当する必修科目の「研究倫理特講」により、研究者として備えておくべき倫理を身に付ける。また、基礎科目である「論文作成法」及び「プレゼンテーション法」において、学術研究をまとめるために必要な技法及び報告の方法を学ぶ。さらに、「農業経済学特論」、「農政学特論」、「食料経済学特論」といった特論科目を履修し、専門領域に対する理解を深める。これらの科目を履修することにより、研究能力及びリーダーシップ能力を修得させることを教育上の目的とする。
	国際アグリビジネス学専攻 国際アグリビジネス学専攻博士前期課程では、国内外におけるアグリビジネスの持続的発展に貢献できる人材を養成するため、農業経営学にかかわる高度な専門知識と研究能力、組織管理で必要となる問題発見・解決能力、国際社会で活躍できるための言語能力等を習得させ、問題解決に向けた計画立案・遂行能力ならびに研究倫理を有した人材の育成を教育研究上の目的とする。
	国際食農科学専攻 国際食農科学専攻修士課程では、研究科共通科目として配当する必修科目の「研究倫理特講」により、研究者として備えておくべき倫理を身に付ける。また基礎科目である「論文英語」、「プレゼンテーション法」、において、学術研究をまとめるために必要な技法及び報告の方法を学ぶ。また、「食農技術学」と「食農経済学」において自然科学と社会科学の両基礎領域を学び、さらに、「植物生産学特論」、「食環境科学特論」、「食農政策特論」、「食農教育特論」といった特論科目を履修し、専門領域に対する理解を深める。これらの科目を履修することにより、研究能力及びリーダーシップ能力を修得させることを教育上の目的とする。

東京農業大学大学院の名称及び教育研究上の目的

博士前期課程・修士課程

【専攻 目的】		
生物産業学 研究科	生物生産学専攻	生物生産学専攻博士前期課程は、農学、林学、畜産学に自然生態学カテゴリーを加え生物多様性の保全を含めた生物生産に係わる資源開発、環境共生等について高度に研究・教育する。その理念の基に資源利用・開発、エコロジー、バイオテクノロジー等の観点から様々な課題を取り上げ、その専門性の高い指導的役割を果たせる人材の養成を目的とする。
	アクアバイオ学専攻	アクアバイオ学専攻博士前期課程は、オホーツク海や沿岸海跡湖における水産資源の持続的供給を可能にする海洋生態系や環境の保全を実践できる人材の育成を目標とし、旧来の水産学や環境学にはない氷結する海域に焦点をあてたオホーツク水産生物学とオホーツク水圏環境学を柱とした知識や技術を身につけ、専門性の高い指導的役割を果たせる人材の養成を目的とする。
	食品香粧学専攻	食品香粧学専攻博士前期課程は、食品や香粧品の製造、品質管理について化学的視野から研究を行い、また食品、香粧品の機能について分子生物学や化学的手法を用いて研究する。これらを通して資源利用・製品開発から、保蔵、安全管理、機能解析まで、食生活と健康推進に関わる分野で活躍できる高度な研究能力を備えた人材の養成を目的とする。
	産業経営学専攻	産業経営学専攻博士前期課程は、地域生物産業の発展を支える経営学・経済学の理論と先端的手法を修得し、社会科学的分野から、地域資源を活用して多様な発展を遂げつつある地域生物産業を担う企業の持続的発展と問題解決に寄与する実学に基づく研究活動を行い、産業経営学の研究者、高度な専門職業人、経営コンサルタント等の人材の養成を目的とする。

東京農業大学大学院の名称及び教育研究上の目的

博士後期課程

【研究科 目的】	
農学研究科	本大学院農学研究科博士後期課程は、国内外の農学諸分野におけるフロンティアとして、見識と実力、さらに健全で調和のとれた人間性を有する研究者および高度専門技術者の人材育成を目指し、実主義教育のもと論理的思考力と問題解決能力の獲得および向上を図り、生物資源、生命科学、環境科学、健康科学ならびに経営・経済分野の教育・研究を行うことを目的とする。
応用生物科学研究科	本大学院応用生物科学研究科博士後期課程は、広範な視野と専門領域における豊かな学識を基盤とし、応用生物学に関連した国際的かつ高い倫理性を有した研究成果を上げ、その社会的還元により、当該分野の先導的研究者・教育者あるいは専門家として独立できる能力を修得させることを教育研究上の目的とする。
生命科学研究科	本大学院生命科学研究科博士後期課程は、広範な視野と専門領域における豊かな学識を基盤とし、生命科学に関連した国際的かつ高い倫理性を有した研究成果を上げ、その社会的還元により、当該分野の先導的研究者・教育者など高度専門職者として独立できる能力を修得させることを教育研究上の目的とする。
地域環境科学研究科	本大学院地域環境科学研究科博士後期課程は、対象とする研究領域における高度専門研究者に必要とされる、身近な地域から地球規模に至るまでの地域環境に関する諸問題に関する高度な理解力と課題解決のための高度専門知識、ならびに調和ある地域環境を構築するための生物資源の保全・利用・管理に関する高度な知識と高度専門技術を基盤にした課題解決のための研究手法を習得させる。さらに、取り扱う諸問題の社会的意義を自覚し、責任感を持って研究にあたる事が出来る高度な倫理観と使命感を習得させることを目的とする。
国際食料農業科学研究科	本大学院国際食料農業科学研究科博士後期課程は、食料・農業・環境領域での各国・地域の特性を活かした発展に向けた技術的・社会的方策の構築に関連する国際的かつ高度な研究成果を上げ、食料農業科学分野の先導的な研究者・教育者あるいは専門家として独立できる能力を習得させること教育研究上の目的とする。
生物産業学研究科	本大学院生物産業学研究科博士後期課程は、幅広い学問領域の知識を備え、高度な専門知識と能力及び創造性豊かな優れた研究・開発能力を持つ人材の育成を目指し、生物産業学に関する実学の精神と文理融合の教育体系に基づき、北方圏の地域性を活用した農林水産に関わる生物資源、バイオテクノロジー、経営経済分野の教育・研究を行うことを目的とする。
【専攻 目的】	
農学研究科	農学専攻博士後期課程は、環境の保全・保護を図りつつ、安全で高品質な農作物を安定的に生産・流通させる技術の確立を目指し、農作物およびそれにかかわる微生物や昆虫類に関する専門的な学理を実学的な視点から教育・研究することにより、卓越した発想・問題解決能力と強い使命感を持ち、現場で発生する種々の問題に柔軟に対応して、国際的にも活躍できる独立した研究者、教育者、専門技術者などの人材を養成することを目的とする。
	動物科学専攻 動物科学専攻博士後期課程は、動物科学について、生体から分子まで様々なレベルで教育と研究を実践する。動物・畜産関連の幅広い分野の諸問題に対し、自ら考え、検証し、対応することができ、国際的にも活躍の場を広げることができる人材を養成することを目的とする。
	バイオセラピー学専攻 バイオセラピー学専攻博士後期課程は、人の生活と自然環境の保全と保護が調和する社会の構築を目指す「環境農学」および動植物の利活用によって人の生活の質や心身の健康の向上と改善を目指す「福祉農学」の視点に立った教育研究を展開する。これら教育研究の目的のもと社会に潜む解決すべき課題を見出し、高度な専門知識と技術に基づいた研究によって立証し、その解決に向けた方策を社会に提言できる自立した研究者または教育者となる人材を養成する。
応用生物科学研究科	農芸化学専攻 農芸化学専攻博士後期課程は、必修の基礎科目として配当する「英語論文作成」において、「土壌肥料学・植物生産化学・応用微生物学・食料資源理化学・生物有機化学・栄養生化学」などの各専門領域における英語論文の読解・作成能力を向上させ、さらに各専門領域における高度な知識と研究能力を修得する。これらを通じ、人類の生活に関わる研究課題を論理的に解決できるのみならず、リーダーシップを発揮し世界で活躍する能力を修得させることを教育上の目的とする。
	醸造学専攻 醸造学専攻博士後期課程では、広範な視野と専門領域における豊かな学識を基盤とし、応用生物学に関連した国際的かつ高い倫理性を有した研究成果を上げ、その社会的還元により、当該分野の先導的研究者・教育者あるいは専門家として独立できる能力を修得させることを教育上の目的とする。
	食品安全健康学専攻 食品栄養学専攻博士後期課程においては、「生体分析科学後期特論」、「リスク評価学後期特論」、「食品開発学後期特論」、「生理活性物質学後期特論」、「生理機能学後期特論」、「生体環境解析学後期特論」、「ケミカルトキシコロジー特論」といった各専門科目などを履修することにより、各専門領域の造詣を深めさせる。それにより、グローバルで、より高度な知識と創造的な研究能力を修得し、問題設定・解決能力および問題解決に向けてのリーダーシップを備えさせることを教育上の目的とする。
	食品栄養学専攻 食品栄養学専攻博士後期課程は、知的財産、研究倫理、研究計画策定に関する必修科目と、それ以外の特論科目を履修することで、研究・産業発展などで指導的立場を担える高度な専門家となるために必要と考えられる領域の造詣を深める。それにより、広範かつ豊富な専門的知識・技術と研究能力を習得させ、次世代を担うリーダーとしての素養を涵養することを教育上の目的とする。

東京農業大学大学院の名称及び教育研究上の目的

博士後期課程

【専攻 目的】		
生命科学	バイオサイエンス専攻	バイオサイエンス専攻博士後期課程では、指導教員のもとで博士論文の作成を行う「特別研究指導」、「英語論文作成法」を通じて、研究成果をとりまとめ、学会発表、学術論文発表するための、研究者としての能力を習得する。また国内外からの講師によるセミナーを中心とする「細胞分子機能科学後期特論」、「植物」生命科学後期特論」、「動物生命科学後期特論」に参加し、最先端の知識、技術を習得し、自らの研究に生かす。以上のカリキュラムを通じて、生命科学の最先端知識・技術を駆使しながら、新規な仮説の提起と検証を通じて、高度に創造的・独創的な教育研究を推進し、研究成果を国際的に発信・討論できる能力を養成する。
地域環境科学研究科	林学専攻	林学専攻博士後期課程は、地域から地球的規模にいたる森林・林業・林産業・農山村に関する高度な知識と理解力や、森林の資源生産的機能と環境保全的機能に関する総合的で高度な研究能力と管理能力を持ち、森林の保全とその多面的機能の高度利用、生物多様性の保全、循環型社会の形成に関する問題設定・解決能力及び問題解決に向けてのリーダーシップを備えた人材の養成を目的とする。
	農業工学専攻	農業工学専攻博士後期課程は、環境に配慮した地域資源の有効利用と循環型社会の構築を理念とし、これらを技術的に具現するために農業土木、農業機械及び環境情報分野の学問を基軸とした実践的な教育研究を行い、国内のみならず海外の現場での技術開発・問題解決と学術的な研究を両立できる高度な能力を持った人材の養成を目的とする。
	造園学専攻	造園学専攻博士後期課程は、庭園・公園などの基本的造園空間に加え、都市から自然地域までの快適な環境を実現するための計画・デザイン思想と技術力、環境を構成する植物をはじめとした生物資源や建設技術に関する知識と応用能力を高め、教育研究活動を通じて豊かな地域社会と社会資本の形成に貢献できる高度な研究者、教育者、専門的技術者などの人材の養成を目的とする。
国際食料農業科学研究科	国際農業開発学専攻	国際農業開発学専攻博士後期課程では、「熱帯作物学後期特論」、「熱帯園芸学後期特論」、「熱帯作物保護学後期特論」、「農業環境科学後期特論」、「農業開発経済学後期特論」、「農村開発協力後期特論」といった専門科目を履修し、高度な専門知識を踏まえて課題を設定し研究を企画遂行する能力、さらには、国内外の農業開発並びに国際協力分野でリーダーシップを持って活躍できる能力を修得させることを教育上の目的とする。
	農業経済学専攻	農業経済学専攻博士後期課程では、「農業経済学後期特論」、「農政学後期特論」、「食料経済学後期特論」といった専門科目を履修し、各専門領域における広範な専門的知識を修得することにより、変化する社会・経済情勢に的確に対応できることを目指す。これらにより、研究能力及びリーダーシップ能力を修得させることを教育上の目的とする。
	国際アグリビジネス学専攻	国際アグリビジネス学専攻博士後期課程では、世界のアグリビジネスの持続的発展に対する課題に積極的に取り組み、研究できる人材を養成するため、農業経営学にかかわる高度な専門知識、優れた研究遂行能力、正しい研究倫理の理解のもと、自立した研究者として国際舞台で活躍できる言語能力を有する人材の育成を教育研究の目的とする。
生物産業学	生物産業学専攻	生物産業学専攻博士後期課程は、博士後期課程として、前期課程に配された「生物生産学専攻」「アクアバイオ学専攻」「食品香粧学専攻」「産業経営学専攻」の4専攻を統合した文理融合型の専門教育体系を敷いている。本専攻は、生態系の保全、農水産、加工開発、経営流通のいずれかの側面を深く掘り下げつつ、包括的な観点から生物産業の実践的な学術理論・技能を身に付けた指導的人材の養成を目的とする。